

【研究対象】2014年4月～8月に国立がん研究センター中央病院でがん疼痛に対して経口オキシコドン徐放製剤（経口 OXC）を開始した18歳以上のがん患者さんのうち、入院で効果と副作用を1週間以上継続して観察しえた方を対象とします。

【研究の概要】高齢のがん患者数が増加し、高齢者においても若年者同様にごん疼痛コントロールが必須ですが、高齢者では肝臓での薬剤代謝の低下、腎臓からの薬剤排泄遅延によって、経口 OXC の血中濃度が上昇することが報告されており、このために鎮痛作用の増強、副作用の増加をきたす可能性があります。

これまでの研究で、高齢の非がん疼痛患者においては経口 OXC の使用による便秘、嘔気、浮動性めまい、傾眠の増加、せん妄のリスクが報告されています。その一方で、高齢がん疼痛患者における経口 OXC の効果、副作用を検証した報告はなく、高齢がん疼痛患者の特徴に配慮した治療が普及しているとはいえない状況です。

本研究では経口 OXC を導入したがん疼痛患者における効果と導入時の副作用を若年者と高齢者の間で比較することにより、高齢者に特徴的な副作用を把握し、高齢者における適切な経口 OXC の導入方法を検討することを目的としています。

【研究の意義】高齢がん疼痛患者さんにおける経口 OXC 導入時の副作用を把握することにより、適切な開始容量の設定や、副作用予防等の対応が可能になると考えられます。高齢がん疼痛患者さんは、痛みやその他の症状のために身体活動に制限が出ることもありますが、そのために導入した薬剤の副作用によって、より強い活動制限が加わる可能性もあるため、安全に治療を行うことが重要です。この研究を通して経口 OXC の適切な導入方法や導入対象患者さんが検証できれば、それを実際の医療に応用して、高齢がん疼痛患者さんの生活の質の向上に寄与できると期待されます。

【目的】上記を受けて、本研究では当院で経口 OXC を導入した患者さんについて後方視的カルテ調査を行い、これらを明らかにすることを目的とします。

【方法】2014年4月～8月に国立がん研究センター中央病院緩和医療科においてがん疼痛に対して経口 OXC を開始した18歳以上のがん患者のうち、入院で効果と副作用を1週間以上継続して観察しえた症例を対象とし、若年者と高齢者にわけて年齢、性別、癌種、病期、PS、NRS、合併症、使用鎮痛薬剤の種類と量、化学療法/放射線療法/手術の有無と種類、併用薬剤、疼痛以外の癌に関連する臨床症状、オピオイド変更の有無および薬剤について、カルテ調査を行います。

【個人情報保護に関する配慮】診療録の閲覧は個人情報を伴いますが、上記解析を行う際には、患者さんの氏名などの個人情報は省いて検討を行い、これらの個人情報が決して外部に漏れることのないよう注意を払います。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて患者さんからご希望があればその方の診療録は研究に使用致しません。研究結果がすでに学会や論文等で報告されている場合にはご希望に添えないこともあります。

【研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

研究責任者：国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 里見絵理子

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL：03-3542-2511, FAX：03-3542-3815